

実践報告

中学校の授業実践に基づく道徳科の授業づくりの課題と方法

Issues and methods for creating moral education lessons based on
junior high school classroom practices

平 山 幸 代

Yukiyo Hirayama

はじめに

令和5年度、勤務校の学校事情で、1年3組の道徳を、1年通して担当した。担任教員は、TTとして入り、原則、自身が授業を担当した。この1年間の実践を振り返り、道徳科の授業づくりの課題について考察する。

1 道徳科の教科化について

2015年3月27日に、小・中学校の学習指導要領が一部改正され、「道徳」は、「特別な教科」となった。昭和33年に道徳の時間が特設された際には、「教科」ではなかったが、「教科」となったことの意義は少なくない。

滋賀県大津市いじめ自殺事件(2011)を契機として、「道徳教育」の重要性が求められ、「特別な教科道徳」が小学校で2018年度、中学校では2019年度から開始された。

2 令和5年度道徳科の年間指導計画

令和5年度、自身の勤務校のA県B市立C中学校において、学校事情で、1年3組の道徳の授業を1年を通して担当した。以下は、その年間指導計画である。
(35時間の単元計画、実際に行ったこと)

月	教材名「主題名」 【内容項目】	ねらい	評価の視点
4月③	1 あなたが うまれたひ 「全ての生命への祝福」 【D 生命の尊さ】	生命誕生の喜びを謳った詩をもとに、生命のかけがえのなさやありがたさについて考え、自他を尊重しようとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 新しく生まれた生命は人々や自然や地球からどのように歓迎されたり祝福されたりしているか他の人と意見を交流し、生命の尊さについて考えを深めている。 【自分のこととして考える】 自他の生命の尊さ、かけがえのなさに気づき、尊重しようという意欲を高めている。
	2 おはよう 「心と形」 【B 礼儀】	挨拶の意味を考えることを通して、礼儀の意義を理解し、相手を尊重する気持ちをもって、時と場に応じた適切な言動をとろうとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 挨拶を単なる言葉と捉えず、形にこめられた価値や、相手を思う心を、日常の様々なことから考えている。 【自分のこととして考える】 挨拶について自分なりに考え、礼儀の大切さに気づき、これからとるべき態度について、自分自身との関わりの中で考えを深めている。
5月③	3 古びた目覚まし時計 「時間の価値」 【A 節度、節制】	時間の大切さに対する「僕」の気づきを共感的に捉えることを通して、自律的な生活を送ることのよさやそのために必要なことは何かを考え、望ましい生活習慣を身につけようとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 「心のベル」をもつことの大切さについて、他の人の考えと照らし合わせながら、考えを深めている。 【自分のこととして考える】 父から「僕」が聞いた話や「僕」が感じ取ったことを共感的に捉え、自らの生活習慣と重ねながら、望ましい生活について深く考えている。
	4 不自然な独り言 「思いやりの心」 【B 思いやり、感謝】	目の不自由な人と出会った時の「僕」の行動について考えることを通して、温かい人間愛の精神を深め、他の人々に対し思いやりの心をもとうとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 思いやりの気持ちをもち伝えようとすることの大切さについて、「僕」の心情や、自身の考え、他の人の考えを照らし合わせながら考えを深めている。 【自分のこととして考える】 障がいのある人の立場に思いをはせ、「思いやり」の心をもち伝えようとすることの大切さについて、自分なりに考えを深めている。
	5 自分で決める 「自由と責任」 【A 自主、自律、自由と責任】	部活動をやめようか迷う陽香里へのアドバイスについて、話し合いを通して考え、一つの判断には責任が伴うことに気づき、自分の行動に責任をもとうとする判断力を育てる。	【多面的・多角的に考える】 自らを律し自らの行為の結果に責任をもつために必要なことについて、他の人の意見を理解しながら考えている。 【自分のこととして考える】 自分の意志に基づく判断によって生じた義務を、忠実に果たすために必要なことについて、自らの経験や今後の生活と重ねて考えている。
6月③	6 「どうせ無理」をなくしたい 「夢や目標を諦めない」 【A 希望と勇気、克己と強い意志】	「どうせ無理」と言われた夢を実現させた植松さんの生き方を学ぶことを通して、より高い目標をもってその達成を目指し、希望と勇気をもって着実にやり遂げようとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 より高い目標をもってその達成を目指すことの大切さについて、植松さんの生き方や心情を理解しながら他の人と意見を交流し、考えを深めている。 【自分のこととして考える】 夢や目標を達成するためには、諦めない心が大切であることを植松さんの生き方から学び、希望と勇気をもってやり遂げようとする意欲を高めている。
	7 ルールとマナー 「法やきまりの意義」 【C 遵法精神、公德心】	SNS でのやり取りについて多面的・多角的に捉えることを通して、インターネット上のコミュニティにおいても「法やきまり」により秩序が保たれていることを理解し、自他の権利を大切にしながら、社会の秩序と規律を高めていこうとする判断力を育てる。	【多面的・多角的に考える】 三人の投稿の問題点を「ルール」「マナー」の視点や登場人物それぞれの立場から考えることで、ルールとマナーの多面性や必要性についての考えを深めている。 【自分のこととして考える】 三人の投稿の問題点を探り出し、自らの経験と重ねながら、自他の権利を大切にしつつ社会の秩序と規律を高めていくことについて考えを深めている。

平山 中学校の授業実践に基づく道徳科の授業づくりの課題と方法

月	教材名「主題名」 【内容項目】	ねらい	評価の視点
6月③	8 「いじり」？「いじめ」？ 「相手の立場に立って考える」 【B 相互理解，寛容】	いじりといじめはどう違うのか話し合うことを通して，考え方や感じ方は人それぞれ異なることに気づき，相手の立場に立って考え行動しようとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 いじりがいじめとどう違うのか様々な立場に立って考えることで，考え方や感じ方は人によって違うということに気づき，相手の立場に立った言動をとろうとする意欲を高めている。 【自分のこととして考える】 考えや気持ちを伝え合うときに自分はどうしようと思うか，話し合いを通して考えを深めている。
7月②	9 ごめんね，おばあちゃん 「家族の一員として」 【C 家族愛，家庭生活の充実】	おばあちゃんに対する「僕」の思いの変化を捉えることを通して，家族の一員としての自覚をもち，父母，祖父母に対する敬愛の念を深めようとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 家族の一員としての自覚をもち，家族の中での自分の役割について他の人と意見を交流しながら考えを深めている。 【自分のこととして考える】 「僕」の心の変化を共感的に捉え，家族の一員として大切にすべきことについて自らの経験と重ねて考え，父母や祖父母に対する敬愛の念を深めている。
	10 まだ進化できる ～イチロー選手の生き方～ 「個性を伸ばす」 【A 向上心，個性の伸長】	イチロー選手が進化し続けられる理由について話し合うことを通して，個性とは何かを考え，個性を伸ばし向上していこうとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 地道な努力を積み重ねてきたイチロー選手の生き方から，進化し続けるために大切なことを多面的・多角的に捉え，個性を伸ばすことに対する考えを深めている。 【自分のこととして考える】 イチロー選手の生き方に共感し，自分の個性を伸ばすために，地道な努力を積み重ねていこうとする意欲を高めている。
9月③	11 最強の敵 最大の友 「高め合う友情」 【B 友情，信頼】	ライバルをたたえる思いを引き出す役割演技を通して，高い目標に向かって切磋琢磨し合うことの大切さに気づき，互いを信頼しながら高め合おうとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 高い目標に向かって切磋琢磨し合うことの大切さについて，二人の選手の心情や考え方を理解・想像しながら考えている。 【自分のこととして考える】 自分を取り囲む友達との友情をよりいっそう大切にするために必要なことについて考え，自らの行動や考えを見直している。
	12 選ぶということ 「社会の一員として」 【C 社会参画，公共の精神】	「自分たちの代表を選ぶ」ことの意味について考えることを通して，社会参画の意識を高め，学校や社会をよりよくするために主体的に関わっていこうとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 「代表を選ぶ基準」について他の人の意見を聞きながら多角的に考え，自分自身の基準について考えを広げている。 【自分のこととして考える】 自分の選択や投票行動が導く結果について考え，積極的に社会に関わろうとする意欲を高めている。
	13 裏庭のできごと 「誠実な生き方」 【A 自主，自律，自由と責任】	自分の失敗を正直に報告できなかった健二の葛藤について考えることを通して，誠実に行動することで得られることに気づき，責任ある行動をとろうとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 誠実に行動し自らの行為の結果に責任をもつことの大切さについて，3人の登場人物の心情を理解しながら考えを深めている。 【自分のこととして考える】 誠実に生きるために大事にすべきことについて，健二の葛藤を共感的に捉え，自らの経験と重ねて考えを深めている。
10月④	14 一日前に戻れるとしたら 「安全への配慮」 【A 節度，節制】	教材と体験をもとに，危険を回避するために必要なことについて考え，安全への配慮としてすべきことについて理解を深め，望ましい生活習慣を身につけようとする判断力を育てる。	【多面的・多角的に考える】 安全に配慮して生活するために必要なことについて，他の人の意見を理解しながら考えている。 【自分のこととして考える】 身近な危険を振り返りながら，安全に配慮するというプロセスの中にある価値について，自らの経験や今後と重ねて考えている。

月	教材名「主題名」 【内容項目】	ねらい	評価の視点
10月④	15 富士山を守っていくために 「豊かな自然を守る」 【D 自然愛護】	富士山が世界文化遺産に登録された経緯を知り、人間と自然との関わりについて考え、自然を守るために自分にできることを探していこうとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 富士山が世界文化遺産に登録された意義について多面的・多角的に考え、人間が自然と関わりながらそれを守ることの価値について考えを深めている。 【自分のこととして考える】 富士山の自然が人々の努力によって守られていることへの気づきから、身近な自然に対して自分にできることは何か、能動的な姿勢で考えている。
	16 けやき中を誇りに 「学校に誇りをもつ」 【C よりよい学校生活、集団生活の充実】	伝統の合唱コンクールに臨む姿勢を考えさせることを通して、学級や学校の一員としての自覚をもち、協力し合ってよりよい校風をつくるとともに集団生活の充実に努めようとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 学校生活を充実したものにするために必要なことについて、登場人物の心情を理解しながら様々な立場に立ち、考えを深めている。 【自分のこととして考える】 先輩たちの伝統を引き継ぎ、学級や学校の一員としての自覚をもって協力し合うことの大切さについて、「私」の葛藤を共感的に捉え、自らの経験と重ねて考えを深めている。
	17 あなたならどうしますか 「いじめをなくすために」 【C 公正、公平、社会正義】	中学校で起こりそうな二つの問題場面から、いじめをなくすために大切なことについて考えることを通して、正義を重んじ、誰に対しても公正に接しようとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 いじめをなくすための行動や、その際に大切にすべきことを、正人や葉月の立場を自分に置き換えたり、被害者の気持ちを想像したりしながら、考えを深めている。 【自分のこととして考える】 差別や偏見のないよりよい社会の実現のために、自分なりにできることを考え出し、大切にすべき心情や態度について、考えを深めている。
11月③	18 ショートパンツ初体験 in アメリカ 「個性を表現すること、受け入れること」 【B 相互理解、寛容】	今までの自己を脱却し強く生きようとする「私」の姿を通して、いろいろなものの見方や考え方があることに気づき、それぞれの個性や立場を尊重し、寛容の心をもって謙虚に他に学ぼうとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 「個性を表現する側」、「個性を受け入れる側」など様々な視点から、心の壁を作らないようにするためにできることについて考えている。 【自分のこととして考える】 個性や立場を尊重すること、いろいろなものの見方や考え方があることについて、「私」の経験と自らの経験を重ねながら考えを深めている。
	19 もったいない 「感謝の心をもつ」 【B 思いやり、感謝】	「もったいない」ことについて考えることを通して、身近なものや今ある生活、周囲からの支えの「ありがたさ」に気づき、感謝の気持ちをもって毎日を大切に生きようとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 「もったいない」にこめられた様々な心を理解し、物的損失だけでなく、物にこめられた人の思いや時間などに対する感謝や敬愛の念について考えている。 【自分のこととして考える】 「もったいない」ことを考えることを通してそれらがあることの「ありがたさ」に気づき、感謝の心をもって生きようとする意欲を高めている。
	20 いのちを考える 「命の重さ」 【D 生命の尊さ】	他の生命との関係性の側面から、生命の重さ、大切さについて考え、生きとし生けるものに対する感謝と尊敬の念をもとうとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 自他の生命の尊さやかけがえのなさについて、多面的・多角的に考えている。 【自分のこととして考える】 他の生命も自分の生命と同じように限りある尊いものであることに気づき、支え合い生かされていることに感謝の思いを深めている。
12月③	21 私に宇宙のプレゼント 「生きることの喜び」 【D よりよく生きる喜び】	病と闘う「私」の姿について考えることを通して、弱さを乗り越え、強く生きようとする気持ちの大切さを理解し、人間として生きることの喜びを見いだそうとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 「私」の「強く生きたい」「生きることがつらい」という葛藤を捉えながら、「私」、家族、臓器提供者などの多様な視点から、強く生きるために必要なことや生きる喜びについて考えを深めている。 【自分のこととして考える】 弱さを乗り越えること、強く生きようとする心、人間として生きることの喜びを見いだそうとする心について、病と闘う「私」の姿と自らの経験を重ねながら考えを深めている。

平山 中学校の授業実践に基づく道徳科の授業づくりの課題と方法

月	教材名「主題名」 【内容項目】	ねらい	評価の視点
12月③	22 歴史を変えた決断 「世界の人々のために」 【C 国際理解, 国際貢献】	緒方貞子さんの決断や言葉について話し合うことを通して、国際的視野に立って世界の平和と人類の発展に貢献することについて考え、その実現に努めようとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 国際的視野に立って難民の現状や世界の情勢に目を向け、世界の平和を望み、自分にはどのようなことができるか、多面的・多角的に考えている。 【自分のこととして考える】 緒方さんが決断した時の思いを共感的に捉えながら、緒方さんが私たちに伝えたいことは何かを考えることを通して、世界の平和と人類の発展に貢献しようとする思いを深めている。
	23 幸せな仕事って 「働くことの意味」 【C 勤労】	職業聞き取り学習の話から、職業選択のあり方や働くことの意義を考えることを通して、自分の仕事に誠実に取り組むことのすばらしさに気づき、自分の将来の勤労について考えようとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 自己実現、社会の一員としての役割、信頼や喜びを得るなどの様々な面から、働くことの意義について考えている。 【自分のこととして考える】 光太郎の気持ちを共感的に捉え、自分自身の進路や、将来の職業に対する不安や葛藤に対して、広い意見を受け入れて考えている。
1月②	24 伝えたい味 「郷土文化の継承」 【C 郷土の伝統と文化の尊重, 郷土を愛する態度】	すまんじゅうを伝え残そうとする「私」の思いを考えることを通して、先人や地域と伝統文化のつながりに気づき、郷土の発展のために自分が寄与しようとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 郷土の伝統文化を守ることの大切さについて、「私」の感じ方や考え方を理解しながら考えている。 【自分のこととして考える】 地域社会の伝統文化を守っていくために必要なことについて、自らの生活や身のまわりの人たちとのつながりと重ねて考えている。
	25 二度と通らない旅人 「人間の弱さ、強さと気高さ」 【D よりよく生きる喜び】	幸せな境遇になった時の父親の気持ちを考えることを通して、人間には弱さや醜さがあるが、それを克服して気高く生きることができるとに気づき、誇りある生き方を目ざそうとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 旅人を家に入れなかった時、娘の病気が治り幸せを感じた時の父親の気持ちを、様々な面から捉えている。 【自分のこととして考える】 父親の行動や気持ちの変化を自分の経験と重ね合わせて考え、自分が人としてよりよく生きることについて深く考えている。
2月④	26 全ての人に安心、安全な水を 「新しいものをつくり出す」 【A 真理の探究, 創造】	水質浄化剤を発明した小田兼利さんの生き方を通して、真理を探究し続けることの大切さやそれを支える思いについて考え、工夫して新しいものを創造していこうとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 小田さんの「誰かのために何かをしたい」という思いや、想像力をはたかせながら探究し続ける姿を通して、新しいものを創造するために必要なことは何か、多面的・多角的に考えている。 【自分のこととして考える】 真理を探究し続けることの大切さや工夫して新しいものを創造していこうとする思いについて、困難に負けず研究を続けた小田さんの姿と自らの経験を重ねながら、考えを深めている。
	27 チョコの行方 「人につき合うときに大切なこと」 【B 友情, 信頼】	「つき合う」とはどういうことか話し合うことを通して、人につき合うときに大切なことを考え、相手を信頼し、大切に思い、理解し高め合おうとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 「つき合う」とはどういうことか、他の人と意見を交流しながら様々な立場に立って考えている。 【自分のこととして考える】 人とよりよくつき合うために何を大切にすればよいか、話し合ったことをもとに考えを深めている。
	28 “庶民の笑い”を絶やさない ～落語家・桂米朝さんの生涯～ 「日本の伝統と文化の継承」 【C 我が国の伝統と文化の尊重, 国を愛する態度】	上方落語の復活に尽くした桂米朝さんの生き方から、伝統や文化を継承するために必要なことについて考え、日本のよさを感じその発展に寄与しようとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 米朝さんの努力を理解し、伝統や文化を継承することの大切さやその時に必要なことについて、多面的・多角的に考えている。 【自分のこととして考える】 日本のよさを感じ伝えるために、自分がその担い手としてできることを、身近なことから考えている。

月	教材名「主題名」 【内容項目】	ねらい	評価の視点
3月 ②	29 よく生きること、よく死ぬこと 「限りある命を生きる」 【D 生命の尊さ】	死ぬことへの恐怖や悔しさを抱えながらも死と向き合い、人生を全うしたヨッチャんの姿から、よく生きるとはどういうことかを考え、周囲への感謝をもってかけがえのない生命を大切に生きていこうとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 生命には限りがあることを念頭に置きながら「生まれてきたこと」「生きること」「死ぬこと」が自分にとってどのようなものなのか、「よく生きるため」「よく死ぬため」には何が必要なのか、考えを深めている。 【自分のこととして考える】 周囲への感謝をもって生きることの大切さやかけがえのない生命を大切に生きていこうとする態度について、ヨッチャんの姿と自らの経験を重ねながら考えを深めている。
	30 オーロラの向こうに 「人の方の及ばないもの」 【D 感動、畏敬の念】	自然の前で自らの有限性を痛感する「僕」の心境について思いをはせることを通して、人間の力を超えたもののとの向き合い方に気づき、自然を畏れ、敬おうとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 人間の力を超えた自然の厳しさと美しさについて、他の人の意見を理解しながら、より具体的に考えている。 【自分のこととして考える】 自然と謙虚に向き合い、その中で自らの生活をより豊かなものにするために必要な姿勢について、自らの経験と重ねて考えている。
補充教材	31 夢への挑戦「パラカヌー」 「困難を乗り越え挑戦し続ける」 【A 希望と勇気、克己と強い意志】	夢へ挑戦する瀬立モニカ選手の生き方について考えることを通して、挑戦し続けることが日々の生活を充実させることに気づき、自らの掲げた目標に着実に到達しようとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 困難を乗り越えて夢へ挑戦する瀬立選手の生き方について多面的・多角的に考えることを通して、挑戦し続けることの大切さを感じている。 【自分のこととして考える】 くじけそうになる瀬立選手の心情を共感的に捉え、困難や失敗を乗り越えて自らの掲げた目標に着実に到達しようとするものの大切さについて、自らの経験と重ねて考えを深めている。
	32 マンションの椅子 ～熊本地震の中で見つけたもの～ 「思いやりの尊さ」 【B 思いやり、感謝】	震災後の地域の人々による共助について考えることを通して、他者を思いやる尊さとすばらしさを感じ、人間愛の精神を深めようとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 マンションの階段に置かれた椅子にどんな名前をつけるか考えることを通して、この椅子がもつ様々な道徳的価値に気づき、他者を思いやる尊さについて考えを深めている。 【自分のこととして考える】 思いやりや感謝の心が人と人をつなぎ人を支えていることに気づき、そのようなことが身のまわりにないか考えながら自分のこととして捉えている。
	33 受け継がれる博愛の精神 ～ロシア兵墓地の清掃～ 「地域の一員として」 【C 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】	ロシア兵墓地の清掃活動の意義やそれを続ける中学生の心情を考えることを通して、地域社会の一員としての自覚をもち、望ましい伝統を大切にしようとする心情を育てる。	【多面的・多角的に考える】 勝山中学校の清掃活動が長年にわたり続いている理由を考えることを通して、地域の伝統を継承することがもつ様々な価値に気づき、考えている。 【自分のこととして考える】 地域の団結とその気持ちを継承することは大きな力をもつことに気づき、自分の身のまわりにあることがらと関連づけながら考えている。
	34 子どもも親も笑顔の町に 「先人への尊敬と感謝」 【C 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】	古川の再生に尽くした中里喜一さんの郷土に対する深い思いについて考えることを通して、先人への尊敬と感謝をもち、郷土に対して主体的に関わろうとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 郷土を愛する先人の思いや業績について話し合うことを通して、過去から現在に受け継ぎ、そして未来へと継承して郷土の発展に貢献しようとする心情について考えを深めている。 【自分のこととして考える】 郷土を愛する先人の思いや登場人物の心情を共感的に捉え、自らの郷土と重ねながら、そのよさについて、調べ学習の経験や地域行事への参加体験等に基づいて考えている。
	35 「夢」をつなぐ ～名古屋城本丸御殿の復元にかけた思い～ 「郷土に対する誇り」 【C 郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度】	夢童由里子さんの名古屋城本丸御殿の復元にかけた思いを考えることを通して、先人への感謝と郷土に対する認識を深め、郷土に対して誇りや愛着をもって主体的に関わろうとする実践意欲と態度を育てる。	【多面的・多角的に考える】 夢童さんの、本丸御殿復元にかけた思いと行動について考えるとともに、それを支え、守ろうとする人々の心情を理解しながら、考えを深めている。 【自分のこととして考える】 郷土に対する誇りとは何か、それを引き継ぎ発展させることの価値について、自らの体験等と重ねて考えを深めている。

3 分析対象の授業実践

自身が共同研究で参加している、研究グループが、教育委員会及び学校長の了解を得ることができたため、教師視点のアイトラッキングカメラによる録画を含め、授業の収録を行い、詳細な分析データを共有し、それらを含めて分析・考察を行い、今後の道徳科の授業づくりの課題について考察した。

(今回の指導案、指導計画)

3 月 7 日 (水) 第 2 限 1 年 3 組	
教科／単元名	道徳 限りある命を生きる D 生命の尊さ (よく生きること、よく死ぬこと)
本時のねらい	死ぬことへの恐怖や悔しさを抱えながら死と向き合い、人生を全うしたヨッチャんの姿から、よく生きるとはどういうことか考え、周囲への感謝をもってかけがえのない生命を大切に生きていこうとする心情を育てる。
学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 事 項
〈導入〉 1 前時に、「いのちを考える」から、いのちについて考えたことを思い出す。 2 「生きる」ことについて考える。 ○楽しいことだけでなく、つらいこともたくさんあるのに、人はなぜ生きるのかだろうか。 〈展開〉 3 「よく生きること、よく死ぬこと」を読み、「生」と「死」について考える。 (1) 病気が進行して手足が少しずつ動かなくなっていくとき、ヨッチャんはどんな思いでいたのだろうか。 (2) ヨッチャんが病気になったからこそ気がついたことと、よかったこととはどのようなことだろうか。 (3) 人は、なんのために生まれ、なんのために今を生きているのだろうか。 4 「よく生きる」ために必要なことを考える。 (1) 「よい生」と「よい死」とは、どのようなことか。 (2) 「よく生きる」ために、大切なことはなんだろう。 〈まとめ〉 5 感じたこと、考えたことをまとめる。	○自他の生命の尊さやかけがえのなさについて、多面的・多角的に考えたことを思い出す。 ○「生きる」ということについて、今の自分の考えを整理する。 ○死と向き合って一生懸命心を整理していたが、そんなに簡単に死の恐怖が薄れることはないことをおさえる。 ○「生きたいという願い」と「死を迎えなくてはいけない現実」の中で葛藤する思いを考えるように促す。 ○生命には限りがあり、誰もがその状況に必ず直面することを伝え、その時、自分や残された人に何を思うのだろうかということをおさえる。 ○「死とは何か」を考えるのは難しい。自分の存在、肉体がどうなるのかも含め、「よい死」を迎えるために何ができるかを考えさせる。 ○「よい死」とは「自分にとって都合のよい死」ではないことをおさえる。 ○「よく生きる」とは自分にとって都合のいい人生という意味ではない。

4 学級の様子

明るく元気な学級であるが、一方で、人間関係で悩んでいたりと、家庭環境で様々な思いを抱えていたりする生徒がいる。学習に関しては、意欲的に取り組む生徒は多いが個人差がある。本主題に関わる生徒の実態アンケートを行った。「①普段から命について考えたことがありますか。」の問いでは、4割の生徒が命について考えることがあると答えた。まだ中学1年生ということもあり、普段から命について考える生徒は少ないということがわかった。「②命は大切なものだと思いますか。」という問いには全員の生徒が大切であると答えており、命が大切なものと捉えていることはわかった。

5 逐語記録

撮影開始からの経過時間	見ているところ	授業者の発言	生徒の発言や行動
導入 4:58	全体を見る	前回の授業で、命ということについて考えるということをやったと思います。 命っていろいろな命があったよね。 人の命。動物の命。植物の命。 もちろん、命って大切だけど、殺さなければいけない命もあるよね。そうしないと自分たちも生きていけないよね。 命について考える中で、いろいろな意見があって、プリントに書いてくれた。 特に「命なしには生きられない。」という言葉について～ 「命には限りがあるから、それを感じながら生きていかなければならない。」 「命＝生きていくこと」と書いてくれた。 今日も命のこと「生きていくこと」について 「よく生きること」「よく死ぬこと」とはについて考えていきたい。	
7:23		最近、楽しいこと・生きていてよかったなとおもうことあったかな。T君。 M君は。 先生だと、おいしいものを食べておいしいな。いいかな。	友達と遊んだりすること。 ぼくも友達と遊ぶこと。
8:00		Nさん。 逆に、つらかったなと思うことは。 つらいと思うことの方がいっぱいあるのかな。	おばあちゃんとかと買い物に行く。
8:13 8:25		K君。 そうだよね 中学生になると勉強つらいよね。	勉強。 うんうん。
8:35 8:56		今、うんうん。と言っていたS君、やっぱり勉強？ じゃあ、何でもみんな、人ってそんなにつらいことあるのに生きているんだろうか。何で生きるの。	うん。 ・・・。
9:11		何で生きるの。ちょっと考えてみて。	お母さんの・・・。

平山 中学校の授業実践に基づく道徳科の授業づくりの課題と方法

撮影開始からの経過時間	見ているところ	授業者の発言	生徒の発言や行動
9:37	全体を見る	S 君なんで。 苦しいこと、つらいこともあるけど、それ以上の楽しさもあるから、だから生きている。 今、うんうんと言っていた S 君、どう。 やっぱり、楽しいことがあるから生きているってこと。 楽しいことがないと生きていけない？ 他はどうか。 M さん、どうか。	えっ、それ以上の楽しさがあるから。 うんうん。 その通り。 はい。 はい。
10:00		生まれてきた以上、意味があって生まれてきているのだから生きていかなければいけない。 今日は、そんな深く、生きるってどんなことなのかなっていうことについて教材を読みながら考えていこうと思います。	生まれてきた以上、生きていかなければいけない。
10:28		158ページ「よく生きること、よく死ぬこと」 よっちゃんのことについて考えていきたいと思います。 ～	
10:46		よっちゃん、みんなにありがとうと言って、安らかな気持ちで旅立っていきました。	
14:19		よっちゃんってどういう人？ 何歳？どんな病気？ 手足が動かなくなっていく。 病気は治るの？ 治らないということは、死が待っている。	16歳。頭にガンができる。 治らない。 (
17:36		何のために生きているのってみんなに聞いたら、「楽しいことあるから。苦しいことよりもっと楽しいことがあるから。」と言ったけど、よっちゃんは治らない。死んでいくの。	
18:00		どんどん手足が動かなくなっていく。そんな自分をよっちゃんはどう思っていたのかな。	
18:19		N 君。 きっとそうだね。	死への恐怖。
19:00		みんなは死への恐怖感じたことある？ NT 君、どんな気持ちだったのかな。	(首を横に振る) (下を向き)・・・。
20:36		みんなは14歳だけど、よっちゃんは、16歳で・・・。 O さん、どう？	16歳で死んじゃうのかなって。 ・・・。死への恐怖。
21:17		Y 君どう？ そんな若さで、そんな簡単に死を受け入れられるのかな。	
21:48		自分がそうになったら、死ってそう簡単に受け入れられるのかな。	受け入れたくない。
22:34		だけどよっちゃん、病気になってよかったと思うことがあるって。そこから気付いたことがあるって。 よっちゃんが、病気になって気付いたこと書いてみて。	
23:15	机間巡視	じゃあ、聞いてみよう。	
23:20		W 君。 K さん。	自分の心に素直になった。 小さなことが大きな喜びをもてるようになった。
27:20 29:52		みんなにとって当たり前のこと。でも、病気になったからこそ、それが、大きな喜びだって気付けた。	
31:14			

撮影開始からの経過時間	見ているところ	授業者の発言	生徒の発言や行動
32:33	机間巡視	みんなに何のために生きるのって聞いたとき「喜びがあるから。生きる価値があるから。」と言ってたけど、N君が、よく死ぬことってどんなこと?って言ってたけど、「よく死ぬ」って自分が死ぬときに何を感じるのがよい死なのか。死ぬって、しゃべっても相手に伝わらないし、体を動かしたくても動かない。それが死んじゃうこと。 自分の中で、生きている人に何を感じてもらいたいのかな。難しい人は、「よく生きる」ってどんなことか。考えて書いて。	
34:00		近くの人と相談してみて。	うん。
35:12		(満足しているってこと。)	
37:19		じゃあ、聞いてみていいかな。	うん。 日々を大切に過ごすこと。
38:46		よく生きること、よく死ぬことについて。 よく生きることの方が書きやすいのかな。	
39:32	全体を見る	でも、よく死ぬことについてもみんなよく書けていたよ。大切に。前向きに。そうだね。 S君、よく死ぬことどう書いたかな。 H君、どう書いた?	
40:45		後悔しない。そうだね。 KAさん、どう?「よい生」でもいいよ。	満足して死ぬこと。 後悔のないように死んでいくこと。
41:32		難しいなって言ってたけど、日頃、生きることや死ぬことについて考えないよね。	精一杯自分なりに生きていくこと。
41:57		でも、みんなのこの年齢で「生きること」について考えていくって大切ですね。 最後に、「よく生きるために大切なこと」これからみんながやっていかなければならないこととは、どんなこと? U君がさっき、「よく生きることとよく死ぬことって変わらない。一緒じゃない。」って。「生きることと死ぬことは別々なことなの?」2つは別々じゃないのかも。U君のそこ、答えがあったようだね。 T君、どう?	うん。
45:20	机間巡視	いいね。拍手。	感謝を忘れずに。いろいろなことを大切にしたい。後悔のないように生きていく。 (みんな拍手)
45:51		HIさん。	
46:00		いいね。拍手。 最後の振り返り。今日の授業を通して何を感じて思ったか書いて。	自分の気持ちをちゃんともって、その気持ちを相手に伝えることがこれからよく生きるために大切。 (みんな拍手)
47:11		いっぱいかいてくれてありがとう。	飛び出すくらい書いた。
48:02		最後に先生から。 生まれてきた以上、命には限りがある。自分たちの限りがある命をどう生きていくかっていうことを考えながら生活をしてほしいと思います。	

6 考察

教師として、自身24年目で。児童生徒の主体的な学びをいかに支援するかを目指しているが、児童・生徒一人一人をとらえているか手応えがないのが課題であった。そこで、ICレコーダーやビデオカメラで授業を録画して授業を見返し、授業づくりの課題やヒントを得たいと考えているところ、2016年度から、共同研究の一環として、自身の授業を児童生徒一人一人多面的に振り返ることが可能で、教師の視野・視線も含めて記録する機会を得ることができた。共同研究の平山・谷口・後藤に授業収録をしていただいた時は、2016年であった。当時、小学校4年生28人の担任で、国語科の「ごんぎつね」の授業を担当した。そこでは、初任者教師との比較対照としての位置づけであったが、自分の普段の授業づくり、児童をどのように見えているかを客観的なデータに基づき分析し、さらに、逐語記録を作成し分析することで、児童生徒の主体的な学びを引き出すことのできる授業づくりのヒントや、今後の課題を探る契機となった。その後2019年度から自身が特別支援学級の担任となったので、以前の通常学級の授業づくりに対して、特別支援学級の国語、プログラミング教育の授業実践教師視点の映像記録との比較検証をすることで自身の授業実践能力を高めることを目標とし、本学会でも、特別支援学級のプログラミングの実践を分析した事例を報告担当した。「特別支援学級の4人の児童は、それぞれの特徴も学年も支援の仕方もそれぞれ異なります。個別対応の授業もありますが、4人相互の関わりを意図的に設定する授業も大切にしています。自身の研究テーマとして「主体的な対話を通して自分の思いや考えを伝え合おうとする児童の育成」がありました。そこで、研究仮説1として、教師視点の映像記録と逐語記録を突き合わせて検討することで、児童生徒のとらえ方を確認することができる。研究仮説2として「教師視点映像記録で児童の変容を追っていくことで、多面的な児童理解ができる」を設定し、分析データに基づき検証・考察を行った。その後、自身、中学校に校務主任として異動し、今年度は、さらに別の中学校に異動し現勤務校に移動し、教務主任を担当している。

今回、分析対象としたのは、前任校の校務主任の今年の3月の道徳の事例分析である。学校事情もあり、担任ではないが1年通して、1クラスの道徳を担当した35時間担当の29時間目の時間の授業である。内容項目D主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関することの中の「生命の尊さ」について考える授業である。「生命の尊さ」については、4月と11月に授業で取り扱い、今回は、今年度の集大成の授業として実施した。2024年3月7日 2時間目 教材名「よく生きること、よく死ぬこと」である。

道徳の授業では、生徒相互の話し合いが深まるように、生徒の座席配置はコの字型で行っている。序盤の指名は、いわゆる、発言力が弱い生徒（座席配置の前方真ん中）を意識して、後半の中心発問に対しては全体の方が学び深まると予想される生徒（座席配置右の窓側）を意識的にピックアップして、指名していることが授業ビデオによる振り返りからわかった。自身の

発問に対して、「うなづいている」生徒（S君）を指名して、生徒の気持ちをつなぐことを意図している。（4分00秒～）さらに、中心発問「よく生きること よく死ぬこととはどういうことか」という発問については、じっくり考える時間をとった。（29分40秒～）近くの子同士で考えてもよいこととし、ワークシートに記入させた。ワークシートへの記入の様子を見て、ここでは、〇〇さんを指名しようと、意図している部分もあるが、生徒の様子を見ながら、順次指名をしている。なるべく、教室の特定の場所ではなく、広く指名して、生徒の意見の交流をはかりたいという意図があるので、全体を見ながら、指名していることが多い。このことが、教師の一人称視点を用いた映像記録からも分析をすることができた。このような研究が自分自身の詳細なふり返し、若手教員の授業力向上に資すると考えており、今後も広めていきたい。

今後の課題としては、これまでの実践の教師視点を再度分析比較し、新たな授業実践のデータ収集を行っていきたい。2021年度からは、中学校の校務主任を担当しているので、自分自身の授業実践の場は減少しているが、若手教員の授業実践にこれらの共同研究の成果を活かして若手教員育成に少しでも力を尽くしていきたいと考えている。

2024年度から、別の中学校に移動し教務主任として、一人一授業としての研究授業を推進している。現在の勤務校の研究テーマとして、個別最適な学びと協働的な学びの一体化に向けての研究を行っているが、この教師視点の研究を有効利用しながら学校の授業力向上の一翼を担っていきたい。

本実践を、「多面的・多角的に考える」、「主体的・対話的で深い学び」のための工夫の二点から考察を行う。

「多面的・多角的に考える」

生命には限りがあることを念頭に置きながら「生まれてきたこと」「生きること」「死ぬこと」が自分にとってどのようなものなのか、「よく生きるため」「よく死ぬため」には何が必要なのかを考えながら深めていった。

「主体的・対話的で深い学び」のための工夫

全体を通して、個人で考えることを中心に、ヨッちゃんの心の動きを確認しながら丁寧に進めていった。恐怖心と闘いながら自分の人生を肯定していくヨッちゃんの姿を共感的に捉え、ゆっくり考えさせていった。展開後半では、「よく生きる」ために大切なことについて、「よい死」を意識しながら、近くの人と意見を共有させていった。「よく生きる」ために大切なことは何かを深く考えさせるためには、思考の段階を確認しながら進める必要があったため、教師と生徒との一問一答が多くなってしまったのが逐語記録からもわかる。「よく生きること」について、幅広く、奥深く捉え考えさせるためには、生徒にじっくり考えさせる時間を十分に確保し、ペアや班での意見共有をする場をもう少し設ければよかったと考える。

7 今後の課題

道徳の授業は、学級担任が担当することが基本とされている。小学校では、担任である教師が教科の授業担当も含めて、児童と向き合い、児童理解を踏まえた学級経営及び授業づくりにもつながることが多い。一方で、中学校では、自身の学級の生徒と向き合い、生徒理解を深め、学級経営及び自身の担当教科の授業づくりにもつながるメリットを考慮すると貴重な授業担当とも言える。一方で、中堅教員が、担任を持っていない校務主任、教務主任等も学級担任と連携を図りながら、担当することも一定の意義があると考ええる。学級担任も自身の生徒を「多面的・多角的に」見直す契機となる可能性もある。

道徳科の授業で重視されている「対話を大切に授業を創る」は、国語、数学、理科、社会、英語をはじめとするすべての教科の授業づくりにも有効である。今後は、共同研究の「教師視点の映像記録の特性を活かした授業研究の方法」の事例の積み上げとともに、道徳科の授業づくりの向上に向けて邁進していきたい。

謝辞

担当した道徳科の授業実践の論文化へのデータ提供の許諾をいただいた勤務校の管理職及び教育委員会の方々、共同研究者の平山勉先生、谷口正明先生、後藤明史先生、に感謝の意を表明する。

参考文献

- (1) 中学校学習指導要領（平成29年告示）、文部科学省
- (2) 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 道徳編、文部科学省
- (3) 平山 勉, 中山 真樹, 平山 幸代, 後藤 明史, 谷口 正明, 竹内 英人：教師視点の映像記録を活用した授業実践能力育成支援の試み（5）―授業者による事例分析に基づいて―名城大学教職センター紀要18 25-43（2021）
- (4) 平山勉, 谷口正明, 中山真樹, 平山幸代, 後藤明史, 竹内英人：教師視点映像記録を活用した授業者の授業改善―道徳とプログラミングの事例分析に基づいて―、名城大学教職センター紀要19 125-138（2022）
- (5) 平山勉, 谷口正明, 中山真樹, 平山幸代, 後藤明史, 竹内英人：教師視点映像記録を活用した授業者の授業改善Ⅱ―道徳とプログラミングの事例分析に基づいて―、名城大学教職センター紀要20 37-53（2023）